

出向く宮農レポート

～JA店舗だけでなく、インショップ等へもアプローチ～



北部営農センター長久手地区担当
大脇 進

長久手産直友の会役員である山本茂彦さんの圃場へ出向き、栽培中の野菜の生育確認をしました。

山本さんはUFOズッキーニ、白カボチャなど珍しい野菜を栽培し、長久手グリーンセンターやイトーヨーカドー内にあるインショップへ出荷しています。

6月の末、ミニトマト栽培において尻腐れ症状*があると聞き訪問をしたところ、一部の果実に症状が見られました。通常トマトの尻腐れ症状は梅雨が明けたころから多く見られますが、今年は6月に入ってから他の生産者からもトマトの尻腐れ症状の報告をよく聞きました。

トマトは水を控えめに栽培されることが多いですが、今年は梅雨が短く乾燥の時期もあったため、トマトがカルシウムを吸収できていないからではないかと考えられます。山本さんには症状が続くようならカルシウム資材『カルクロン』の葉面散布を行うよう勧めました。

また今年はナスの栽培本数を200本に増やして6月中旬から出荷をしているほか、8月はオクラの出荷が最盛期を迎えます。ミニトマト、ナス、オクラといった夏野菜が出そろうこの時期、JA産直所だけでなく、9月以降の学校給食への出荷にも積極的にアプローチをしていきます。



トマト尻腐れ症状

※**尻腐れ症状**：トマト栽培でカルシウム欠乏により起こる症状。病気ではなく生理障害であり苦土石灰等の石灰資材の投与、カルクロンの葉面散布などが有効な改善方法。



山本さんはサンマルツァーノリゼルバ、ロッソナポリタンといった非常に珍しい品種のミニトマトをソバージュ栽培*で管理しています。通常の露地栽培より長期間の出荷が可能となり、端境期の出荷が見込めます。

※**ミニトマトソバージュ栽培**：わき芽かきをせず、放任的に育てる栽培方法。定植後、誘引と追肥だけが主となる作業となるため、管理が省力化される。一本仕立てよりも花数が増え収量増加が見込まれる。



UFOズッキーニ



生育確認